

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

10月23日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 10/27(土) 17:00～

テーマ「**休眠衣料を世界へ送ろう**」のとりくみ  
(**園田学園高等学校 放送部**)

<市長> 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。どうぞ！

<2人> みなさんこんにちは！

<川上> 園田学園高等学校放送部2年生の川上 恵です。

<小笠原> 同じく放送部1年生の小笠原 智美です。

<2人> よろしく願いいたします。

<川上> さて。この番組に今年も出演させていただく私たち園田学園高等学校放送部ですが

<小笠原> 今日はですね、毎年この時期に本校で行われる「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみと、今年度の実施に関する情報をお伝えしようと思います。

<川上> 園田学園では毎年の恒例行事となっている「休眠衣料を世界へ送ろう」ですが…。みなさん、休眠衣料って言葉わかりますか？

<小笠原> 漢字では「休んで眠っている衣料」と書きまして…

<川上> そうなんです。よくお医者さんや病院の「医療」と聞き間違えられますが、そうではありません。衣服の「衣料」です。

<小笠原> もう飽きた、流行を過ぎた、サイズが合わなくなった…さまざまな理由でダンスや押し入れに眠っている衣料が、みなさんのご家庭にもあつたりしますよね？そういった衣料を、学校内部だけではなく、地域の方々からもご提供いただいて、NPO法人

を通じて発展途上国に送り届ける...という活動のことです。

<川上> それでは、この「休眠衣料を世界へ送ろう」について。とりくみが始まった経緯やその後の歴史がどのようなものであったのかを生徒会顧問である安松先生にインタビューしてまいりました。

～インタビュー～

<インタビュアー> 生徒会顧問安松先生です。よろしくお願いします。

<安松先生> よろしくお願いします。

<インタビュアー> では最初に、休眠衣料活動の敬意を教えてください。

<安松先生> 休眠衣料活動は、園田学園で取り組んだのは12年前からだったと思います。そのときは、生徒会の活動ではありませんでした。一般の生徒の方が、こういう活動があるということ調べてきて、当時いらっしゃった体育の先生と口コミというか、その方と呼びかけで始まって行きました。2年くらいその活動が続いていて、生徒会の方で引き受けて、生徒会を中心にやっていこうということで、現在の形になったと思います。

<インタビュアー> そうですか、ありがとうございます。次に、先生自身が学んだことや感じたことは何かありますか。

<安松先生> 私が生徒会の係になってから、私自身も休眠衣料活動に参加するようになりました。それまではたまにしか参加できなかったんですけど、この活動を通じて感じるのは、そこに集まってくるボランティアの一般の生徒の皆さん、クラブ活動でそこに参加してもらった生徒の皆さん、それから生徒会役員の皆さん、生徒の皆さんのパワーはもちろんなんですけれど、一般の方たちも大変この活動に関心を寄せてくださって、カンパをくださったりとか、一声かけてくださったりとか、がんばってくださいとか、たくさんのエネルギーをもらっていますので、そういう人たちとの触れ合いを通じて私自身もたくさんの元気をもらっています。

<インタビュアー> ありがとうございます。では最後に、校外の方へ向けてメッセージをお願いします。

<安松先生> 園田学園では毎年10月になるとこの活動をまた呼びかけて、校内でもたくさんの生徒さんと一緒にとりくんでいます。校外の方々も、地域でピラをまかせてもらったりしていますので、こういったピラを目にされたりして、家に余っている衣類などがあればお持ちいただいて、そして、集まってきた衣類が、今は自分たちにあまり縁がないかもしれませんが、遠い国々の方たちと一緒にサポートできるようなものにつながっていけるということで、すごく世界とつながる活動であることを意識してもらえたら嬉しいなと思っています。

<インタビュアー> ありがとうございました。

<川上> いかがでしたか？

<小笠原> 小さなとりくみがやがて地域の方々にも浸透していったのには、とても驚きました。

ちなみに川上さん、昨年度の様子はどんな感じでしたか？

<川上> 昨年度は、地域の方々が来校してくださり、集まった衣料は1万4,576着、ダンボールにして実に654箱になりました。

<小笠原> 654箱！すごいですね～！

<川上> しかしですね。たいへんなのはその輸送費なんです。ダンボール一箱を送るのにも、1,500円程度の輸送費がかかります。なので、衣料と同時に輸送費のカンパもみなさんにご協力を呼びかけています。昨年はおかげさまで18万1,719円ものカンパをご提供いただきました。もちろんこの活動には、地域の方々だけではなく、園田学園の教職員や生徒もたくさん関わっています。

<小笠原> そうなんですね！

<川上> 今年は10月27日の土曜日、28日の日曜日に行われます。小笠原さん、ぜひ参加してください。

<小笠原> わかりました。それではここで、昨年度から運営に関わってきた、生徒会長の栗岡泉希さんからのメッセージを紹介いたします。川上さん、お願いします。

<川上> (栗岡さんメッセージ) こんにちは。生徒会長の栗岡泉希です。生徒会役員として「休眠衣料を世界へ送ろう」に関わってきて地域のつながりの大切さを学びました。また、休眠衣料だけにとどまらず、他のボランティアにも参加したいとも思いました。活動を続けていくということは、続けていこうという人がいないとできません。さらに、休眠衣料という活動をたくさんの方に知っていただかないと、服を捨てずに残してもらうことができません。ここ数年、提供いただける衣料もカンパも減ってきているので、もっと協力していただく地域を広げ「協力したい」と思ってもらえるように生徒会も努力しなければなりません。なぜ始まったのか、どういう思いで活動しているのかを、校内にも、地域の人たちにもきちんと伝え、休眠衣料のことをもっと知ってもらうことが大切だと思っています。

<川上> 小笠原さん、どう思いましたか？

<小笠原> 生徒会長として活動してきた栗岡さんだからこそ、強い気持ちが伝わってきました。

<川上> そうですねえ。私自身2年生ですが休眠衣料についてまだまだわかっていなかった部分があったなあと感じました。私と同じように「休眠衣料」という名前しか知らないという生徒も多いと思います。こうやってラジオで校外の方々に活動を知ってもらうことももちろん大切ですが、まずは校内に、もっと協力を呼びかけることが必要ですね。

<小笠原> 私たちもあらためて、クラスに呼びかけていこうと思いました。栗岡さん、メッセージありがとうございました。

<川上> ありがとうございました。

<小笠原> さて川上さん。今日は「休眠衣料を世界へ送ろう」のとりくみを紹介してきましたが、いかがでしたか？

<川上> ただ着なくなった服を集めて発展途上国に送るだけでなく、その裏側には生徒会の皆さんの思いや苦勞、努力があって初めてこの「休眠衣料を世界へ送ろう」という活動ができているんだなあと実感しました。

<小笠原> 初めて話を聞いたときは、単に服をダンボールに詰めて送る活動かと思っていました。しかし、実際に活動してみると、世界ではとても多くの方が、着るものにも困るような生活を送っていることがわかりました。この活動を通じて、世界中の困っている方々に、少しでも役立つことができたらと思えるようになりました。

<川上> それでは最後に、2018年度「休眠衣料を世界へ送ろう」についてのご案内です。今年度は10月27日 土曜日 午後1時30分から午後4時までと、10月28日 日曜日 午前10時から午後3時までの、2日間となっています。収集場所は両日とも園田学園中学校・高等学校 西側校地 新校舎の正門となっています。ただし、お願いしたいことがあります。衣料を提供していただく際、和服やベビー服、ベビー用品、布団、衣料小物、ネクタイ、ベルト、手袋、帽子は受け付けることができませんのでご注意ください。

<小笠原> あらためまして、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

<川上> それでは、お別れの時間となってしまいました。お送りしたのは、園田学園高等学校放送部2年生の川上 恵と、

<小笠原> 同じく放送部1年生の 小笠原 智美 でした。

<2人> それではみなさん。本日はありがとうございました！さようなら！

<市長> いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上